

問2. 化石燃料を燃やすと、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をたくさん排出してしまいます。

日本の化石燃料依存度は、1973年は94%でしたが、2010年には81%に減少させました。

では、2016年での化石燃料の依存度は何%でしょう？

- ①約50%      ②約70%      ③約90%

答え ③の約90%

解説 経済産業省の資源エネルギー庁によると、2011年の東日本大震災の原子力発電所の活動停止に伴う火力発電所の焚きましによって、化石燃料の依存度はさらに高まったとされています。

そのため、液化天然ガスの利用の増加や火力発電の高効率化によって温室効果ガスを減らすなどの取り組みが進められています。

出典 経済産業省 (2014) パリ協定 - 経済産業省・資源エネルギー庁

[https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/pariskyotei\\_sintyoku4.html](https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/pariskyotei_sintyoku4.html)

2019年7月3日

問3. 日本では、1人あたり1年間でどの位の二酸化炭素を排出しているでしょう？

- ①約5トン      ②約10トン      ③約15トン

答え ②の約10トン

解説 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) によると、日本は2016年に、世界全体の二酸化炭素排出量の約3.5%を排出しており、これは世界第5位の排出量です。総排出量を人口で割った値が10トンになります。

出典 JCCCA 環境省全国地球温暖化防止推進センター (2019) (日本の現状) より

<https://www.jccca.org/> 2019年7月3日

問4. 森林は、二酸化炭素を吸収してくれますが、今現在は減少しています。

では、世界の森林は1時間で東京ドーム何個分減少しているといわれているでしょう？

- ①約50個分      ②約90個分      ③約130個分

答え ③の約130個分

解説 環境省自然環境局自然環境計画課によると、森林が1年間に失われる面積は520万ヘクタールで、東京ドーム約110万個分に相当します。これを計算すると1日では東京ドーム約3000個分、1時間では東京ドーム約130個分の面積の森林が失われていることになります。

出典 環境省 環境省自然環境局 (2019) 生物多様性センター

<http://www.env.go.jp/kobuusho/organization/department/naature.html> 2019年7月3日

問5. このまま地球温暖化が進めば、日本の気温は、2100年末に、最悪何°C上昇しているでしょう？

- ①約5°C      ②約8°C      ③約11°C

答え ①の約5°C

解説 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) によると、過去50年の気温上昇は、自然の変動だけでなく、人類が引き起こしたものと考えられているそうです。また、今後、温室効果ガスの濃度がさら

さらに高くなると、気温はさらに高くなると予測されています。そのため、2100 年末には、温室効果ガスの排出量が最も少なく抑えられた場合でも、1.7°Cの気温上昇、最悪の場合には、最大 4.8°Cの気温上昇と予測されています。

出典 JCCCA 環境省全国地球温暖化防止推進センター (2019)  
環境省 環境研究総合推進費 2014 年報告書 <https://www.jccca.org/> 2019 年 7 月 3 日

問 6. このまま地球温暖化が進めば、日本の砂浜は 2100 年末に何%減少しているのでしょうか？

- ①約 55%    ②約 70%    ③約 85%

答え ③の約 85%

解説 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) によると、1901 年から 2010 年の間で、約 19 c m 海面が上昇し、その主な原因は、海水の温度上昇による水の膨張と、氷河などが溶けてしまったことであると考えられています。このままでは、21 世紀中に最大で、82 c m 上昇すると予測され、日本では 1m 海面が上昇すると、全国の砂浜の、90%以上が失われます。

出典 JCCCA 環境省全国地球温暖化防止推進センター (2019)  
環境省 環境研究総合推進費 2014 年報告書 <https://www.jccca.org/> 2019 年 7 月 3 日

問 7. このまま地球温暖化が進めば、日本の降水量は、2100 年末に最悪何%増加しているのでしょうか？

- ①約 15%    ②約 30%    ③あまり変化していない

答え ①の約 15%

解説 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) によると、北半球の中緯度から、高緯度の陸地のほとんどにおいて、降水量は増加傾向にある一方で、大部分の北半球亜熱帯の陸地の降水量は、減少傾向にあり、また、降水量の増加する多くの地域では、降水量の多い年と少ない年の変動が大きくなると考えられています。

出典 JCCCA 環境省全国地球温暖化防止推進センター (2019)  
環境省 環境研究総合推進費 2014 年報告書 <https://www.jccca.org/> 2019 年 7 月 3 日